

令和7年度地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

1 目的

国庫補助金「地域公共交通確保維持改善事業費補助金」のメニューである「地域間幹線系統確保維持費国庫補助金」および「地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金」については、令和7年度（令和6年10月～令和7年9月）の事業が終了し、11月に交付申請を行いました。本補助金については、実施した事業に対する評価を行い、その事業評価結果（1次）を本年1月30日までに関東運輸局へ提出することとされています。

本補助金の交付主体は、地域公共交通活性化再生法に基づく協議会とされているため、「行田市地域公共交通会議」がこれに該当しております。

つきましては、令和7年度の事業評価（1次）について当会議に諮るものです。

2 ご審議いただく内容

次の事業評価書類に記載の内容についてご審議ください。

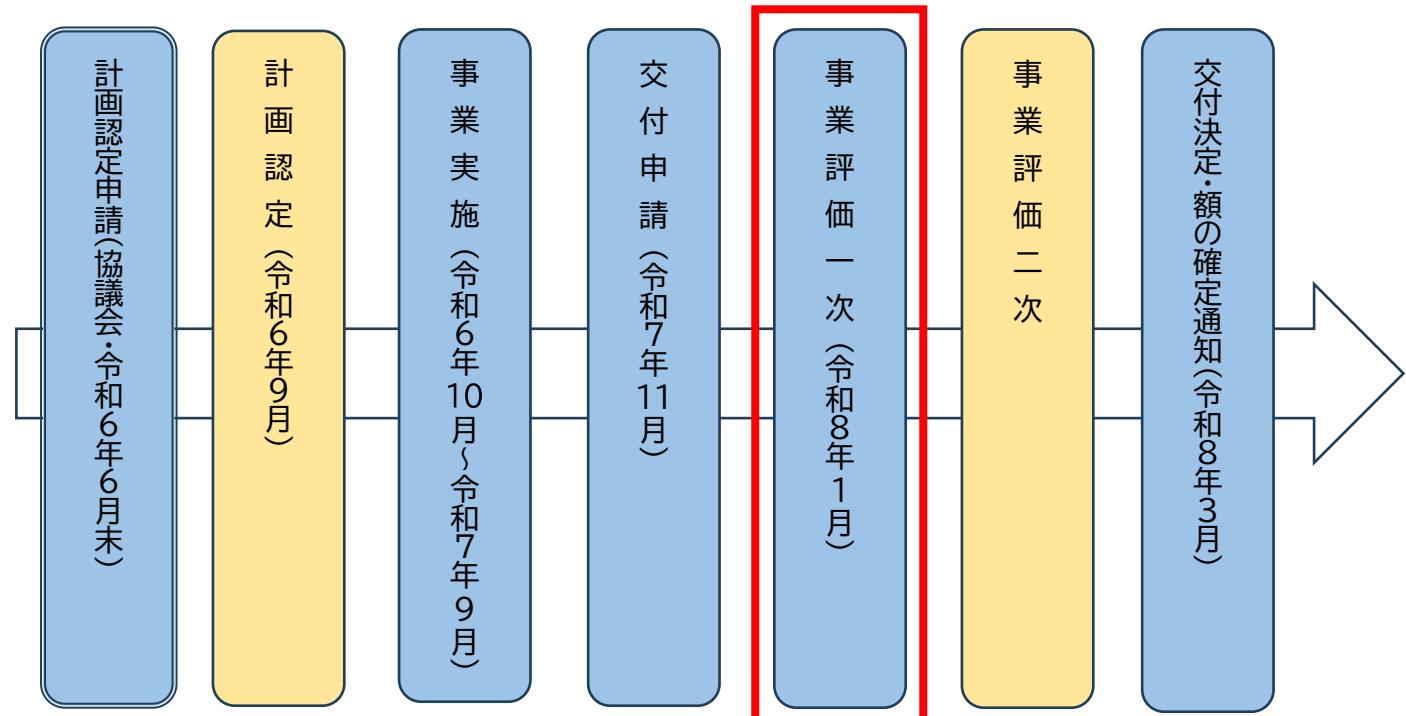
（1）令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域間幹線系統）

[対象の路線]熊谷駅～南河原支所～犬塚線

（2）令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域内フィーダー系統）

[対象の路線]西循環コース、南大通り線コース、観光拠点循環コース

3 今後のスケジュール（予定）



地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名： 行田市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
事業者：国際十王交通株式会社 系統：熊谷駅北口～犬塚	運行区間： [起点]熊谷駅 [主な経由地]南河原支所 [終点]犬塚	<ul style="list-style-type: none"> ・共通学生フリークーポン(定期券)、スクマムクーポン(高齢者定期券)発売時期に合わせてホームページ及びバス車内で告知し販売促進を図った。 ・行田市立南河原小学校でバス乗り方教室を実施した。 ・南河原ふれあい祭りで路線バス利用促進を図った。 	A	<p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p> <p>A</p> <p>輸送人員目標164,053人に対して165,208人となり目標を上回った。要因としてくまがやドーム、陸上競技場でのイベントの増加に伴う利用者増が考えられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き共通学生フリークーポン、高齢者定期券の販売促進を図る。 ・くまがやドーム、陸上競技場で行われる大会関係者の路線バス利用が予想される際は増便して促進を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和8年1月 日

協議会名:	行田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>地域間幹線系統である熊谷駅～南河原支所～犬塚線は、市の拠点と市外のJR鉄道駅(熊谷駅)を結んでいるため、市民の市外へのアクセスを支える最も身近な公共交通機関であり、とりわけ少子高齢化の進展が著しい本市においては、自家用車がなくても移動ができる公共交通の必要性は一層高まっている。</p> <p>当該路線は、当市の出先機関である南河原支所や隣接する熊谷市内の病院、広域行政圏の中心駅である熊谷駅へ連結するなど、利用者の移動ニーズに対応しているものである。市民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へつなげるために、複数市町村にまたがる地域間幹線系統の確保・維持に引き続き努める必要がある。</p>

協議会名・補助対象事業者名

行田市地域公共交通会議
国際十王交通株式会社

系統名

熊谷駅～南河原支所～犬塚

事業の目的・必要性

- 地域間幹線系統である熊谷駅～南河原支所～犬塚線は、市内の拠点と市外のJR鉄道駅(熊谷駅)を結んでいるため、市民の市外へのアクセスを支える最も身近な公共交通機関であり、とりわけ少子高齢化の進展が著しい本市においては、自家用車がなくても移動ができる公共交通の必要性は一層高まっている。
- 当該路線は、当市の出先機関である南河原支所や隣接する熊谷市内の病院、広域行政圏の中心駅である熊谷駅へ連結するなど、利用者の移動ニーズに対応しているものである。市民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加でき、活力ある地域へつなげるために、複数市町村にまたがる地域間幹線系統の確保・維持に引き続き努める必要がある。

事業の概要・目標・効果

● 起点: 熊谷駅 経由地: 南河原支所 終点: 犬塚

● 系統キロ: 8.8km

● 運行回数等: 15.4回

● 目標・効果 目標: 164,053人 実績: 165,208人

● 利用促進・生産性向上の取り組み

- ① 共通学生フリーパス(定期券)、スクマムバス(高齢者定期券)の販売促進を図った。
- ② 行田市立南河原小学校でバス乗り方教室を実施した。
- ③ 南河原商工会主催の「南河原ふれあい祭り」開催時に、路線バス利用促進のPR活動を実施した。

●直近3ヶ年の推移

	令和5年度	令和6年度	令和7年度
輸送人員(人)	164,053	172,279	165,208
経常収支(千円)			
収支率(%)			
平均乗車密度(人)	4.3	4.5	4.3
補助金額(千円)	1,750	2,647	1,993

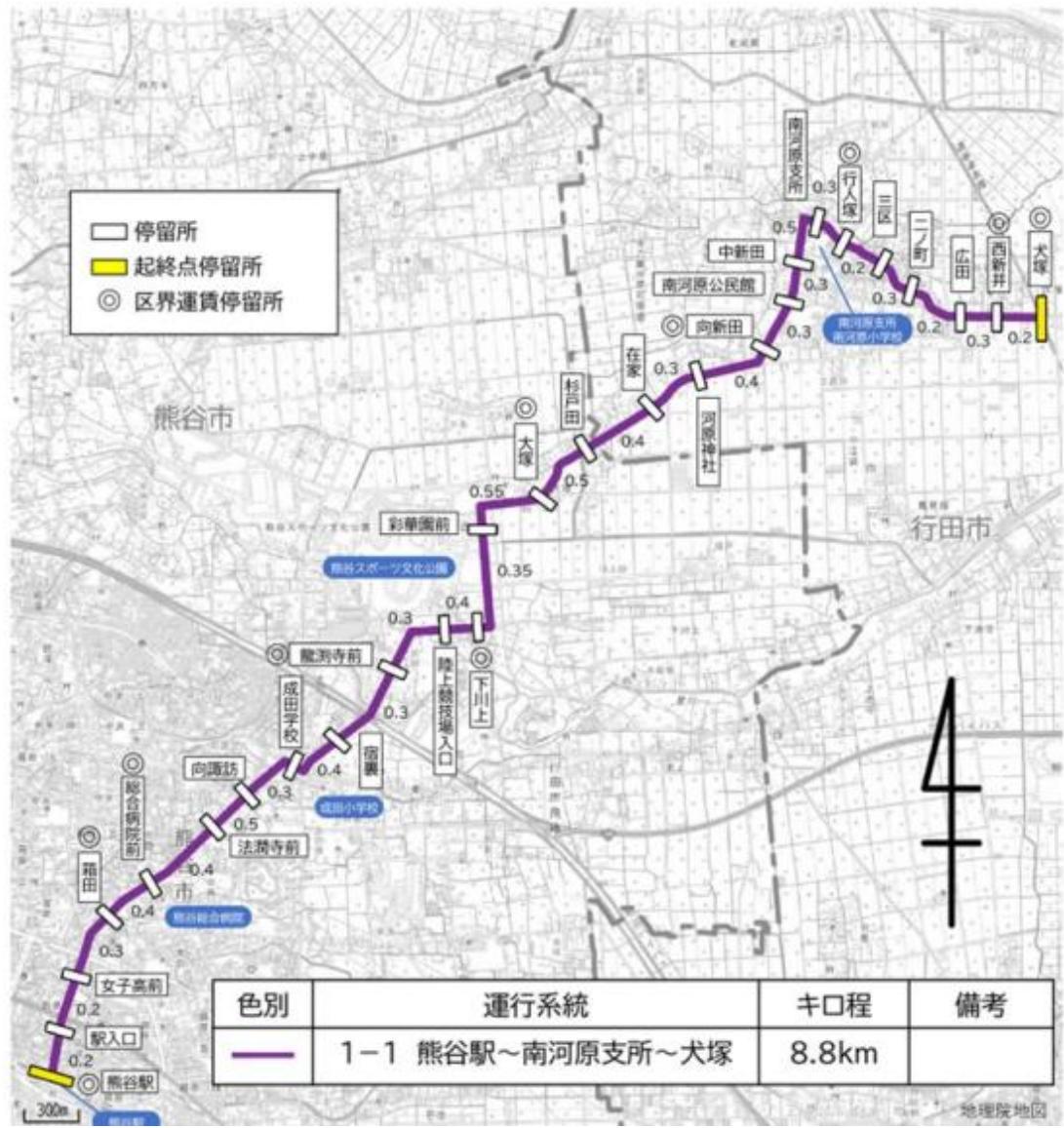
目標・効果の達成状況

輸送人員目標164,053人に対して165,208人となり目標を上回った。
要因としてくまがやドーム、陸上競技場でのイベントの増加による利用者増が考えられる。

今後の改善点

- ・引き続き共通学生フリーパス、高齢者定期券の販促進を図る。
- ・くまがやドーム、陸上競技場で行われる大会関係者の路線バス利用が予想される際は増便して促進を図る

事業実施区域



運行回数 15.4回
利用人数 165,208人

運賃表

		箱田		熊谷駅	
		総合 病院前		200	
		龍湖寺 前		200	
		下川上	200	200	240
		彩華園 前	200	200	240
		大塚	200	200	240
	向新田	200	200	200	220
	行人塚	200	210	240	240
吾新井	200	200	270	290	320
大塚	200	200	270	310	310
				330	400
				430	440

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画に基づく事業)

令和8年1月 日

協議会名： 行田市地域公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車(株)	<p>【市内循環バスの運行】 ・西循環コース(往復とも7.2km) 運行回数: 平日26便、土日祝12便 運賃: 200円</p> <p>・南大通り線コース(12.6km) 運行回数: 平日36便、土日祝22便 運賃: 200円</p>	令和7年度から新規指定のため、前回の事業評価結果なし	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	<p>【目標と実績】 ①公共交通の年間利用者数 目標値 380万人 実績値 411万人【達成】 ※実績値は令和6年4月～翌3月で集計</p> <p>②市内循環バスの収支率 目標値 16. 1%以上 実績値 23. 8%【達成】</p> <p>③観光拠点循環コースの利用者数2%増 目標値 28,208人 実績値 32,676人【達成】</p> <p>【分析】 ①公共交通の年間利用者数は、鉄道利用者のコロナ減からの回復の影響が大きかった。 ②市内循環バスの収支率は、令和7年3月末で利用者数の少ない3路線の運行を終了し、運行を継続する3路線では運賃改定を行い、収支率が改善した。 ③観光拠点循環コースの利用者数は、新車両へのキャッシュレス決済の導入による利便性向上や、夏季の観光客需要が盛況であったことにより、利用者数が増加した。</p>	公共交通再編の内容を踏まえて、公共交通ネットワークが一目でわかる公共交通マップを作成し、公共交通利用者数の維持に引き続き取り組む。 本年1月より導入したバスロケーションシステムの利用方法を周知し、市内循環バス利用者の利便性向上を図ることで、市内循環バスの利用者数の増加に繋げる。
(株)大堰観光バス	<p>【市内循環バスの運行】 観光拠点循環コース(17.2km) 運行回数: 平日・土日祝ともに9便 運賃: 200円 (車両減価償却費等国庫補助金申請系統)</p>				

事業実施と地域公共交通計画との関連について

令和8年1月 日

協議会名:	行田市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	行田市地域公共交通計画(令和6年3月策定) 基本方針:便利で愛される持続可能な地域公共交通の実現 【地域内フィーダー系統の維持確保の必要性】 本市では、少子高齢化の進展が著しく、高齢ドライバーの交通事故、自動車運転免許証の自主返納者の増加等により、自家用車がなくても移動できる公共交通の必要性が年々高まっている。自動車運転免許証を所有していない学生や高齢者、障がい者などの交通弱者に対しての移動手段を確保することが、市民が安心して社会生活を送り、積極的に社会参加できる活力ある地域の実現へつながるため、市民の生活交通手段である市内循環バスを維持・確保していく必要がある。

令和7年度 行田市地域公共交通会議（埼玉県行田市） (地域内フィーダー系統確保維持事業)

地域の公共交通等の現況・課題／補助対象系統の位置付け

本市は、鉄道、路線バス、市内循環バス、乗合型AIオンデマンド交通、タクシー等の公共交通手段により、運転免許証を所有していない学生、高齢者、障がい者等の交通弱者に対しての移動手段が確保されているが、自家用車の依存度が高く、将来的な公共交通の利用意向が高い状況とはいえない。一方で、少子高齢化の進展が著しいため、自家用車がなくても移動できる公共交通の必要性が一層高まっている。補助対象系統である市内循環バスは、市内交通の支線として、地域の中核的な医療機関や鉄道駅等の公共施設など、移動ニーズに対応した運行を行っている。

補助対象系統の需要・現況・課題／活用したデータ

当該系統は広域幹線である高崎線のJR行田駅に接続しており、市内の拠点間をつなぎ、路線バスでカバーできない地域の足となっている。令和7年度は、乗合型AIオンデマンド交通を導入したうえで利用者が著しく少ない市内循環バスの一部路線の運行を終了する交通再編を実施するなかで、市内循環バスの運賃改定を実施し、収支面の改善に取り組んだ。来年度は公共交通ネットワークが一目でわかる公共交通マップを作成し、公共交通の利用者数の維持に引き続き取り組むとともに、バスロケーションシステムを導入することで市内循環バス利用者の利便性向上に取り組む。活用しているデータ：利用者数、収支率。

定量的な目標

- 公共交通の年間利用者数380万人（令和4年度実績380万人）を維持
- 市内循環バスの収支率16.1%※1以上（令和4年度実績15%）

※1 令和10年度目標値20.4%の計画期間1年目における割合

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況／来年度に向けた取組の検討

【今年度の実施状況】

○支線となるバス路線の再編に伴う新たな移動手段の実証運行の開始（R7.1.6～R8.1.5）…市内全域を運行区域とする事前予約制の乗合型AIオンデマンド交通「うきしろ号」の実証運行を実施。

○市内循環バスの一部路線の運行終了（R7.3.31）…利用者が少なく収支面に課題があった一部路線を終了。

○市内循環バスの運賃改定（R7.4.1）…運行を継続する市内循環バス路線の運賃を150円から200円に改定。

【来年度の取組予定】

○新たな公共交通マップの作成
○バスロケーションシステムの導入

アピールポイント

○公共交通再編に関する利用説明会の開催…公共交通再編を、個別の事業の開始・終了・制度変更としてではなく、ひとまとめの取組として市民に理解してもらえるように努め、公民館をはじめ、民生委員や学童支援員、学校など関係団体への説明会を計35回実施した。



面 積	67.49km ²
人口（R7.4.1時点）	77,426人
15歳未満	7,353人
65歳以上	25,807人
高 齡 化 率	33.3%

交通計画の計画期間

令和6年4月～令和11年3月

協議会開催状況

- 第4回（令和7年2月3日）
市内循環バスのダイヤ見直しについて ほか
- 第1回（令和7年5月23日）
うきしろ号の運行内容の見直しについて ほか
- 第2回（令和7年6月25日書面開催）
フィーダー系統補助の計画認定申請について ほか
- 第1回運賃協議部会（令和7年8月6日）
うきしろ号に高齢者と同乗する付添人の運賃について ほか



地域の公共交通体系図



補助対象事業の実績データ

- 公共交通の年間利用者数(令和6年4月～令和7年3月)

利用者数:411万人

種類	利用者数
鉄道	3,123,377
路線バス	757,211
市内循環バス	199,459
デマンドタクシー	22,471
乗合型AIオンデマンド交通	3,287
合計	4,105,805

- 市内循環バスの収支率(令和6年10月～令和7年9月)

①経常収益:20,592,756円

②経常費用:86,409,771円

収支率①/②:23.8% ※経常収益および経常費用は、交付申請時の様式1－5内で算出した値を使用

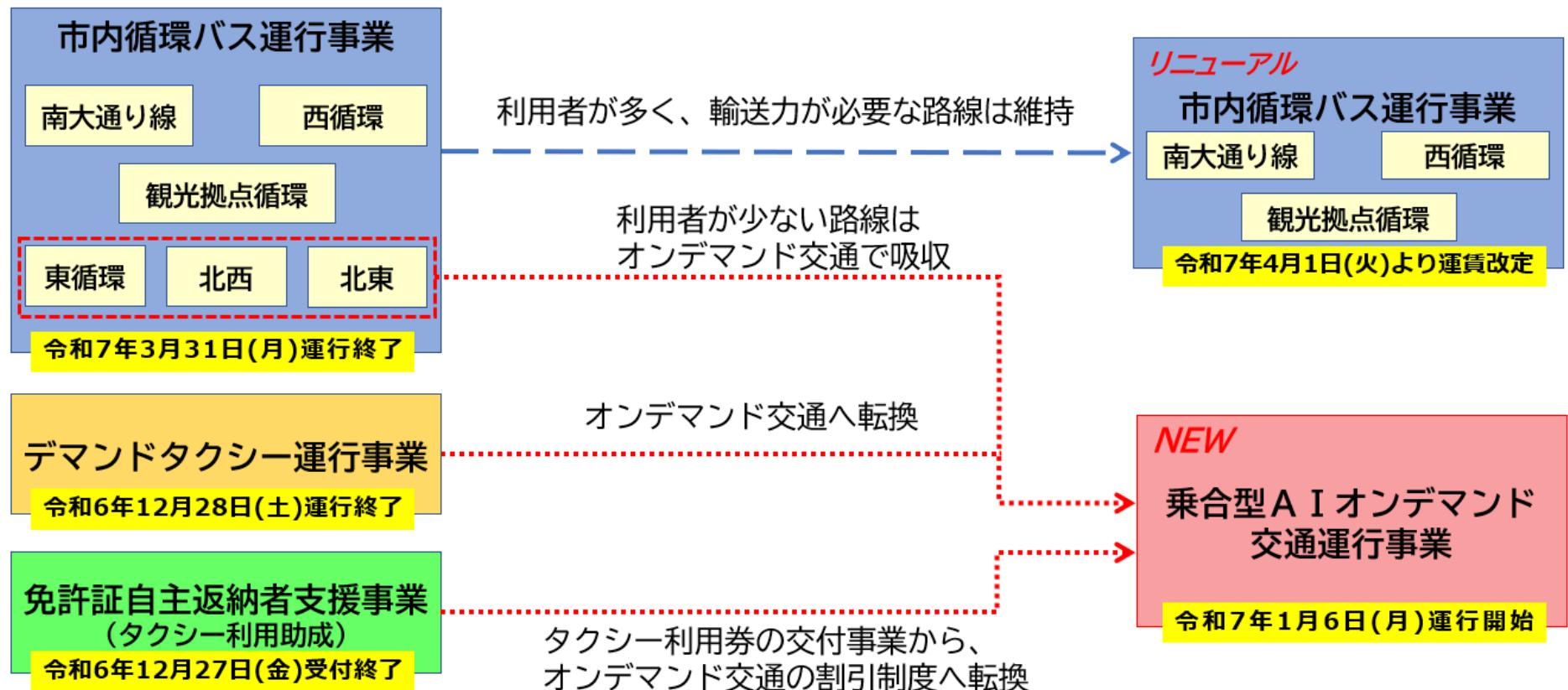
- 観光拠点循環コースの利用者数2%増(令和6年10月～令和7年9月)

利用者数:32,676人

	R6.10	11	12	R7.1	2	3	4	5	6	7	8	9	合計
利用者数	2,663	2,133	1,525	1,489	1,907	2,094	2,780	2,330	2,572	6,447	3,640	3,096	32,676

その他参考資料(交通再編の内容)

再編のグランドイメージ



補助対象事業の運行系統図 市内循環バス全路線マップ

